

# St. Luke's International University Repository

## Community Health Nursing Clinical Practice Experience and Learning Analysis of Evaluation by Students and Community Health Nurses.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 酒井, 昌子, 長江, 弘子, 錦戸, 典子, 川越, 博美 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10285/432">http://hdl.handle.net/10285/432</a>

This work is licensed under a Creative Commons  
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0  
International License.



報 告

## 地域看護実習における実習展開方法の検討 —学生と保健婦による実習目標達成度評価の分析から—

酒井 昌子<sup>1)</sup> 長江 弘子<sup>1)</sup>  
錦戸 典子<sup>1)</sup> 川越 博美<sup>1)</sup>

### Community Health Nursing Clinical Practice Experience and Learning Analysis of Evaluation by Students and Community Health Nurses

Masako SAKAI, R.N., P.H.N., M.N.<sup>1)</sup>, Hiroko NAGAE, R.N., P.H.N., M.N.<sup>1)</sup>,  
Noriko NISHIKIDO, R.N., P.H.N., Ph.D.<sup>1)</sup>, Hiromi KAWAGOE, R.N., P.H.N.<sup>1)</sup>

#### [Abstract]

Students at St. Luke's College of Nursing have two-week placements for community health nursing (CHN) practice at public health centers in various districts of Tokyo and 2 days of additional experience in conjunction with that. Over the past several years national policies and laws have re-structured the delivery of services, thus changing the roles of community health nurses (CHNs) and the settings in which they practice. In order to more fully understand current CHN practice, and especially opportunities for students to develop necessary skills, two instruments ("The Student's Experience Record" and "The Evaluation for Practice Goals") were developed to assess student and CHN perceptions of student learning. The results are summarized in this report.

Practice goals refer to 14 essential skills for CHN practice (e.g., home visiting; conducting group health education sessions). The greatest practice experience was in maternal and child health (96.4%); least was infection control (3.6% practice and 28.6% observation). Student and CHNs ratings of learning were close. Where students rated their learning as high, so also did the CHN staff (e.g., individual and family care: 3.8 and 3.6 on a 4-point scale, respectively). Students' least in the areas of infection control, policymaking, and budgeting (e.g., infection control: 2.90 and 2.86). In light of these findings, faculty and CHNs must discuss: 1) how practice might change to be more in accord with CHN responsibilities and 2) how to provide needed learning experiences for students within time frames of the curriculum.

1) 聖路加看護大学 地域看護学 St. Luke's College of Nursing, Community Health Nursing

2002年1月8日 受理

[Key words] community health nursing,  
 [キーワーズ] 地域看護,  
 evaluation  
 評価

clinical teaching, baccalaureate education,  
 実習, 大学教育,

### [抄録]

本学の地域看護実習は、特別区内の保健所および保健センターにおいて約2週間の実習を行っている。ここ数年、特別区においても地域保健法による保健所・保健センターの改編が進められ、それに伴い保健婦の役割や活動も変化している。そのような背景の中で展開されている地域看護実習の実態を明らかにするために、学生の「実習経験記録」と「実習目標達成度評価票」を用いて分析をした。その結果、保健事業別の経験割合は、「母子保健事業」(96.4%)が最も多く、また「母子保健事業の理解」の実習目標達成度も高かった。最も低い経験は「感染症対策」(28.6%)であった。支援方法別の実習経験は、どの支援方法も高く、また「支援技法の理解」の実習目標達成度も高かった。実習目標達成度は、学生による自己評価と保健婦による学生評価は、共に全般に高い傾向にあった。実習目標達成度において最も高かったものは、「個別支援方法の理解」だった(4点評定；学生3.8、保健婦3.6)。最も達成度が低かったものは、「感染症対策の理解」(学生2.9、保健婦2.8)であり、その他に「保健事業計画・施設化の理解」、「保健事業の組織・予算・マンパワーの必要性の理解」が低い達成度であった。これらから、今後は、変化の中にある地域看護職の役割や機能を明らかにしながら、現在のカリキュラムの中でより有効な実習内容や方法について、教育側と臨床側が共に検討をしていくことが求められる。

### I. はじめに

近年、地域保健法が制定され、21世紀に向けた保健医療福祉行政のあり方は行政主導からヘルスプロモーションの概念へとシフトされ環境改善と住民参画という新しいキーワーズで展開されるようになった。折しも、2000年介護保険法の施行、保健医療計画の策定など、まさに激動の保健行政である。それに伴い、特別区においても保健所の組織及び名称の改編が進み、地域における保健福祉行政のあり方と共に、保健所の果たすべき役割が問われている。当然、保健婦業務にも変化が生じ、保健婦の福祉部門への配置や高齢者、精神保健などの特定業務への専任制の進行が行われ、保健婦の機能も再考されている。そのような中で保健婦は地域看護実習指導に対して、何をどこまで教えるのかという戸惑いが多い<sup>1)</sup>。

本学の地域看護実習は、1998年より実施された統合カリキュラムのもと、4年前期に3週間のⅡ

レベル臨床実習の実習として展開している。毎年90名近くの学生を特別区23区のうち、28カ所の保健所・保健センターと44カ所の訪問看護ステーションへ一斉に依頼している。現在の指導体制は、専任の教員4名と非常勤実習講師2名の6名で、一人4~5カ所の実習施設を担当し、教員一人当たりの受け持ち学生数は、概算で20名近くなる。かねてから、他のⅡレベルの臨床領域と比較し、実習指導体制の問題と学習内容とその効果については課題となっていた。これらの社会的背景を鑑み、今後の保健婦の基礎教育と保健所実習のあり方を再検討する必要がある。

本稿では、平成13年度の地域看護実習における学生の「実習経験記録」から実態を明らかにした上で、学生および保健婦による「実習目標達成度評価票」を分析し、実習目標と保健婦教育の今後の課題を報告する。

## II. 地域看護実習の概要

### 1. 実習目的と実習目標

本学の地域看護実習は、「地域看護活動が展開されている場の実践活動への参加や見学により、地域で生活している人々の健康を守るしくみを理解する。また、各種の実習を通して地域看護活動の理念、および共通する支援技法を理解する。」ことを目的とし、保健所・保健センター実習(2.5単位)と訪問看護ステーション実習(0.5単位)で構成されている。そのうち、本稿では、保健所・保健センター実習の検討を目的としている。以下、保健所・保健センター実習を地域看護実習として述べる。

表1は、実習目標の達成度の評価を比較したものであるが、左の項目部分が実習目標となっている。これらの各実習目標には、具体的な下位目標を設定している。

### 2. 実習内容と方法

表2に地域看護実習の実習内容とそのねらいを示す。限られた履修時間の中での実習目的、目標の達成のために、実習前、実習期間中、実習終了後にわたって学習内容・方法を設定している。

#### 1) 実習前

実習前の実習内容としては、実習施設である保健所・保健センターの事前訪問と地区踏査をもとに地区診断を行い、地域の特性や健康課題を明らかにするとともに、中心的に実習したい内容をレポートにする。この事前学習によって、学生に保健所・保健センターという新たな実習施設への円滑な導入を促すというねらいがある。また、学生の実習前レポートは事前に指導保健婦と共有し、教員と指導保健婦は学生のレディネスの把握と学生の実習目的や希望に応じた実習となるよう実習スケジュールの調整に活用している。

#### 2) 実習期間中

実習期間中は、指導保健婦や所長または他の専門職から保健所の機能についてのオリエンテーションを受け実習地域における公的機関としての機能・役割の理解を深める。具体的な実習の展開は、ま

ず、学生の学びたい事業に焦点をあて、その中の個から集団の一連の保健事業を学ぶように実習計画を立てる。その際、地域看護活動の展開方法のうち、個別的支援技法として「家庭訪問」と、集団的支援技法として「健康教育」をできるだけ学生が主体となって実施するように指導している。また、実習期間中は適宜、実習学生、指導保健婦および教員を交えたカンファレンスを実施する。カンファレンスを通して、学生個々の実習目標にそった実習の学びについてグループ内の共有を図ったり、指導保健婦や教員からの助言を得て学びを深める機会としている。実習期間中は実習日誌および実習経験記録によってその日の実習内容を記述し、指導保健婦や教員に提出し実習内容のフィードバックを受け、実習内容の振り返りを行う。

#### 3) 実習終了後

実習終了後、学生は実習目標の達成度について自己評価を行う。実習のまとめとして、実習期間の最終日に実習グループ全体による実習報告会を開いている。実習報告会では、実習グループ毎に実習地域の特色ある保健婦活動について発表し合い、学生全体の学びの場として理解を深めている。これらを終えて、実習評価のために、実習後レポートと共に実習中に学生が展開した全ての記録、資料をファイルにして提出している。

## III. 調査方法

平成13年度の地域看護実習学生と実習指導保健婦を対象とした。調査票として「実習経験記録」と「実習目標達成度評価票」を用いた。

「実習経験記録」は、実習経験の把握のために「母子保健事業」「成人・高齢者事業」などの各保健事業別に「健康相談」「健康診査」など地域看護活動の展開方法の区分を設けた。さらに、「見学」と「実施」の経験項目に分け、実習期間中の経験回数をそれぞれ記入させた。ここでいう「実施」とは、「家庭訪問」や「健康教育」のように計画から評価に至る一連の実践を行うものから、各保健事業の中で一部分でも学生が主体となって地域住民に保健活動を行うものまで含んでいる。

表1 実習目標および学生と保健婦の実習評価達成度の比較

実習目標		学生の自己評価		保健婦の実習評価	
		平均点 n=72	(SD)	平均点 n=72	(SD)
1 地域看護の対象となる人々と地域の特性及び健康課題について理解する。		3.48	(0.65)	3.32	(0.64) **
1) 実習した地域の健康指標・生活環境を把握し、どのような健康課題があるのかを説明できる。		3.64	(0.51)	3.22	(0.61) ***
2) 実習した地域の健康生活を守る社会資源を把握し、どのように活用しているかを説明できる。		3.43	(0.62)	3.25	(0.67)
3) 実習した地域の人々がどのような生活をし健康意識を持っているかを考えることができる。		3.41	(0.62)	3.24	(0.70)
2 保健所や保健センター等で実施されている保健婦活動を理解する。		3.28	(0.79)	3.21	(0.73)
1) 母子保健事業について事業の目的・内容・保健婦活動について説明できる。		3.78	(0.48)	3.54	(0.67) *
2) 成人・老人保健事業について事業の目的・内容・保健婦活動について説明できる。		3.26	(0.76)	3.39	(0.66)
3) 精神保健事業について事業の目的・内容・保健婦活動について説明できる。		3.42	(0.73)	3.23	(0.70)
4) 感染症に関する保健事業について事業の目的・内容・保健婦活動について説明できる。		2.90	(0.81)	2.86	(0.66)
5) 保健所・保健センター等における保健事業の計画・評価及び施策化について考えることができる。		3.06	(0.84)	3.03	(0.73)
3 保健婦が用いる支援技法を理解する。		3.76	(0.44)	3.56	(0.59) ***
1) 個人・家族を対象とした個別の支援技法について理解する。		3.75	(0.47)	3.61	(0.57)
2) 特定集団・地域を対象とした集団的支援技法について理解する。		3.78	(0.42)	3.51	(0.61) **
4 関係機関との連携の必要性や社会資源の活用方法を知る。		3.61	(0.52)	3.45	(0.67)
1) 関係機関及び関係職種と協働して保健婦活動を進めることの必要性とすすめかたを理解できる。		3.61	(0.52)	3.45	(0.67)
5 保健所・保健センター等の組織と役割について理解する。		3.48	(0.66)	3.21	(0.68) ***
1) 実習した保健所・保健センター等の組織について説明できる。		3.57	(0.62)	3.20	(0.64) ***
2) 実習した保健所・保健センター等における保健婦の位置づけと役割について説明できる。		3.60	(0.62)	3.41	(0.62)
3) 保健事業を実施するための組織・予算・マンパワーの必要性及び保健婦の役割について理解できる。		3.27	(0.62)	3.01	(0.72) **

- a) 実習目標ごとに「よくできた」4点、「まあまできた」3点、「少しできた」2点、「できなかった」1点の評価尺度による平均  
 b) 実習目標1～5の平均は、それぞれの下位目標（各実習目標の1)～5))の平均から算出した  
 c) 同じ実習目標達成度評価票を用いて、学生は自己評価を行い、指導保健婦は学生ごとに実習目標の評価を行った  
 d) 学生自己評価と保健婦の実習評価について対応のあるt検定を行った

\*\*\* : p < .001 \*\* : p < .01 \* : p < .05 において有意な差が認められたもの

分析方法は、実習終了後に提出された学生の「実習経験記録」の「見学」、「実施」の経験回数のうち、1回以上の経験を「経験あり」とし、0回を「経験なし」として換算し、見学・実施別の経験割合を算出した。経験割合は、保健事業別、支援技法別さらに特に各自が実施するように指導

した「家庭訪問」と「健康教育」についてそれぞれ算出した。

「実習目標達成度評価票」は、実習目標および下位目標を評価項目として、「よくできた」4点から「できなかった」1点の4段階の評価尺度を用いて、実習終了後に学生が自己評価を行った。

表2 実習前・実習中・終了後の実習内容とそのねらい

実習内容		実習のねらい
実習前	1. 事前訪問	地域診断の演習の一貫として、実習前に保健所を事前訪問する。同時に保健所・保健センター等とその周辺の地区踏査を行う。
	2. 地域診断	保健所・保健センター等とその周辺の地区踏査および保健所事業概要、地域の健康指標の資料から地域の特性と健康課題を把握する。
	3. 実習前レポート	事前学習1. 2. より実習を行う地域の特性と健康課題を明らかにし、また中心的に実習したい内容についてレポートとしてまとめる。実習前にレポートを指導保健婦に渡し、学生のレディネスの把握とともに実習調整に役立てる。
実習期間中	1. オリエンテーション	指導保健婦および所長・予防課長、他の保健所の専門職（食品衛生、環境衛生の職員等）から、保健所の機能について説明を受け理解を深める。
	2. 実習計画立案	指導保健婦とともに学生個々の実習目標に沿った実習計画を立案する。
	3. 家庭訪問	保健婦の展開方法の理解として、できれば1回以上家庭訪問を実践する。（訪問対象は、訪問看護ステーション実習との関係から新生児訪問を希望させる。）
	4. 健康相談	学生の希望した対象の保健事業を通じ、各保健婦の展開方法の特徴を理解する。各保健事業が一連であることを理解させる。
	5. 健診事業	
	6. 地区組織活動	
	7. 健康教育	保健所の健康教育の一コマを実習グループで実施する。教授案の立案から、教材の作成、模擬授業、実施、評価までの一連を通して健康教育を理解する。
	8. カンファレンス	個々の実習の学びをグループメンバーで共有し学習を深める。
実習終了後	1. 実習目標の自己評価	・実習終了後、実習した内容を振り返り、実習目標の達成度について自己評価を行う。
	2. 実習後レポート	・自分が立てた実習目標と保健婦活動についてレポートする。
	3. 実習報告会	・実習グループ全体の学びを共有するために、グループ毎に実習を行った地域の健康課題と保健婦活動を取り上げて発表し、全体討議を通して理解を深める。

また同様の「実習目標達成度評価票」を用いて、指導保健婦が学生ごとの実習評価を行った。指導保健婦による「実習目標達成度評価票」については、実習終了時に担当教員が直接回収した。

分析方法は、学生による自己評価および保健婦による実習評価の両方が揃っている72名分を分析に用い実習目標毎の平均を算出した。実習目標の平均は各実習目標に設定されている下位目標の平均から算出した。

学生の自己評価と指導保健婦による実習評価の比較については、各々の目標毎に対応のあるt検定を行った。有意水準は5%未満とした。

## IV. 結 果

### 1. 地域看護実習経験の状況

#### 1) 保健事業別の見学・実施経験（図1）

根拠法令に基づく保健事業別において、見学において経験割合が最も高かった事業は「母子保健事業」(96.4%)であった。その次には、「成人・

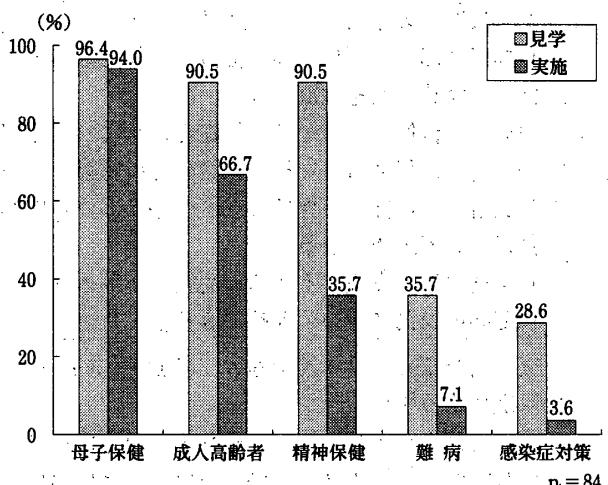


図1 保健事業別の見学・実施経験の状況

高齢者保健事業」、「精神保健福祉事業」（ともに90.5%）であった。「難病」(35.7%), 「感染症対策」(28.6%)については低い見学経験割合であった。実施経験割合では、「母子保健事業」(94.0%)が最も高い割合であった。「成人・高齢者」(66.7%), 「精神保健福祉事業」(35.7%)については、それぞれ実施は見学に比べて低かった。

難病（7.1%）、感染症対策（3.6%）についてはさらに低い経験割合であった。全体として学生は保健事業別では「母子保健事業」に集中して経験していた。

### 2) 支援技法別の見学・実施経験（図2）

地域看護活動の支援技法のうち、見学では「健康診査」（97.6%）が最も高く、次に「健康教育」（90.5%）、「家庭訪問」（82.1%）、「健康相談」（81.0%）、「連携ネットワーク」（72.6%）、「自主グループ支援」（61.9%）と続き、高い経験割合であった。実施では「健康教育」（89.3%）の実施経験が最も高く、「家庭訪問」（61.9%）が次に高かった。続いて「健康診査」（52.4%）、「健康相談」（32.1%）、「自主グループ支援」（22.8%）と実施経験は低くなり、「連携ネットワーク」（1.2%）においてはほとんど実施経験はなかった。全体として見学においてはほとんどの支援技法について経験することができたといえる。実施については実施を指導した支援技法の経験は高かったが、それ以外の実施経験は低い傾向であった。「自主グループ支援」や「連携ネットワーク」など支援技法の内容によっては、実習生の実施は困難と予測できるものもあった。

### 3) 「家庭訪問」、「健康教育」の見学・実施状況（図3、4）

#### 見学・実施経験が高かった支援技法の「家庭訪

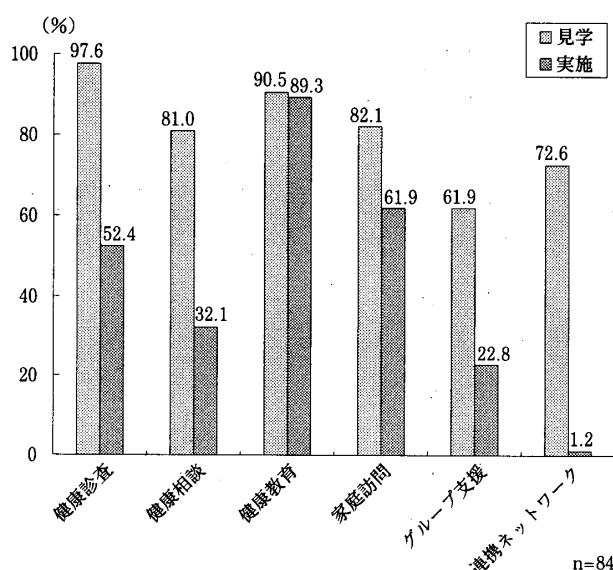


図2 地域看護活動の支援技法別の見学・実施の経験状況

問」と「健康教育」についてどのような事業の中で経験しているかを見てみると、「家庭訪問」では「母子保健事業」（見学70.2%，実施53.6%）が最も高かった。その次は「精神保健福祉事業」（見学35.7%，実施19.0%）、「難病」（見学15.5%，実施4.8%）、「成人・高齢者保健事業」（見学13.1%，実施10.7%）、「感染症対策」（見学4.8%，実施0.0%）であった。やはり保健事業別において経験割合が高かった「母子保健事業」において「家庭訪問」を多く経験していた。保健所の公的機能として特徴といえる法的根拠に基づいた「感染症対策」は「家庭訪問」では少なかった。

「健康教育」においても、「母子保健事業」（見学82.1%，実施70.2%）が最も高かった。その次は「成人・高齢者保健事業」（見学47.6%，実施29.8%）であったが、その他の事業においてはほ

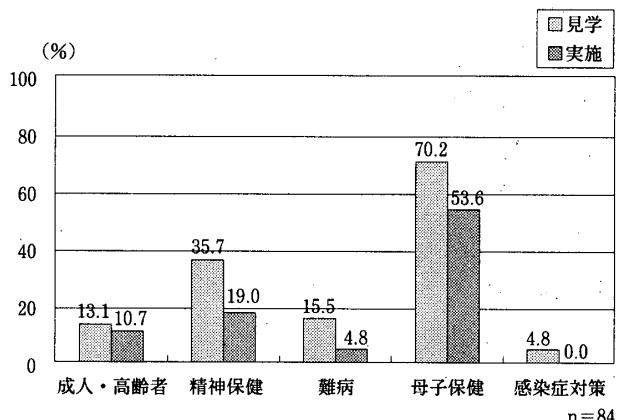


図3 “家庭訪問”の見学・実施の内訳

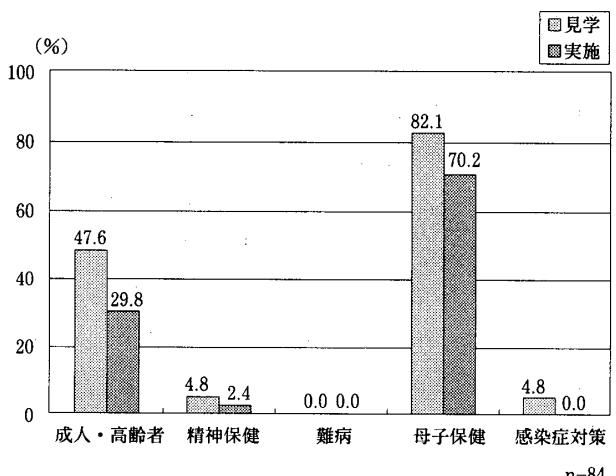


図4 “健康教育”の見学・実施の内訳

とんど経験されていなかった。「健康教育」で経験した事業は、保健所において開催されているプログラムによって決定される部分があった。

## 2. 実習目標達成度の状況（表1）

実習目標の達成状況については、学生の自己評価による実習目標達成の評価の平均点は、大方「まあまあできた」の3.0点以上であった。保健婦による学生評価の平均点は、学生の平均点より全体的に低い傾向であったが、どの実習目標の平均点も学生の自己評価同様に3.0点以上を示し、実習目標の達成度は全体的に高い傾向であった。

学生の自己評価で、最も高い達成度であった実習目標は「保健婦の支援技法の理解」(3.76点±0.44) であった。最も低い達成度は「保健婦活動の理解」(3.28点±0.79) であった。下位目標については、「感染症に関する保健婦活動の理解」(2.90点±0.81) が最も低く、次に『保健事業計画・評価、施策化の保健婦活動の理解』(3.06点±0.84) が低かった。

保健婦による実習評価における実習目標の達成度は、最も高いものは「保健婦の支援技法の理解」(3.56点±0.59) であった。低い達成度は「保健婦活動の理解」(3.21点±0.73), 「保健所・保健センターの組織・役割の理解」(3.21点±0.68) であった。これらは学生の自己評価と同様な傾向であった。下位目標についても、『感染症に関する保健婦活動の理解』(2.86点±0.66) が最も低く、次に、『保健事業計画・評価、施策化の保健婦活動の理解』(3.03点±0.73) や『保健事業のための組織・予算・マンパワーの必要性の理解』(3.01点±0.72) が低く、これについても学生の自己評価と同様な傾向であった。

学生と保健婦の実習評価における比較では、実習目標については「地域の特性と健康課題の理解」( $p < .01$ ), 「保健婦の支援技法の理解」( $p < .001$ ) と「保健所・保健センターの組織・役割の理解」( $p < .001$ ) において、学生の自己評価が保健婦の評価より有意に高かった。その他の実習目標では、学生と保健婦の評価において有意な差は認められなかった。

下位目標では、『実習地域の健康課題の把握』( $p < .01$ ), 『母子保健事業の理解』( $p < .05$ ), 『集団的支援技法の理解』( $p < .01$ ), 『保健所・保健センターの組織の理解』( $p < .001$ ) と『保健事業のための組織・予算・マンパワーの必要性の理解』( $p < .01$ ) において、学生の自己評価が保健婦の評価より有意に高かった。

## V. 考 察

### 1. 実習内容の精選

地域看護活動は地域で生活している人々を健康的の側面から支援していく活動である。そのため、地域看護活動では個々人への援助技術ばかりではなくその人を取り巻くサポートネットワークづくり、さらに地域のシステムや政策づくりという機能を発揮してケアを行っていく<sup>2)</sup>。こうした地域看護の複雑な活動事象を、限られた履修時間にある臨地実習の中で理解させるためには、実習内容や実習方法における工夫や教員と臨地指導者との連携が求められる<sup>3)</sup>。

そのため、本学においては、学生が中心的に学びたい保健事業を通して、その事業の中で個から集団という保健活動における支援方法の展開を学ぶように指導している。今回の「実習経験記録」の保健事業別、支援技法別の分析から、多くの学生が「母子保健事業」を通して学習を進めていた。そのために実習目標の達成度における「母子保健事業」の理解が高かったといえる。冒頭にも述べたが、地域看護実習は、保健所の改編により保健婦活動が流動的な中で多くの実習施設にわたって展開しているため、学生に一貫した実習の学びの機会を確保することが重要である。その意味においても、「母子保健事業」は、どの保健所・保健センターにおいても多く展開されている事業であり、一連の支援技法を学ぶ上においても適当な実習内容と考えられる。しかし、「感染症対策」の経験割合や実習目標達成度の低さの結果にあるように、保健所の機能や役割や保健婦活動の広さを学びにくい状況がみられた。そのため、学びやすい実習内容に限定するのではなく、それらの学習

ができるように指導者の助言や見学の機会を得ることが必要であり今後の課題であろう。

## 2. 実習の見学・実施経験

実習は理論と実践の統合の場としてあり、実習の場で実際に看護実践する意義は大きい。村上<sup>4)</sup>は、地域看護における臨地実習のねらいを、学内における既習の地域看護活動の基本的な知識、技術、態度を実際の活動の場で確認することと述べている。学生は、実習地域の保健事業や地区活動に参加し、自ら体験することによってこれまでの学習内容を確認する。参加による確認という実習であっても、直接住民に接することや保健婦が住民に関わる姿に接することは講義では得られない貴重な体験であり、学生にとっては保健婦活動の意義を肌で感じる機会になる<sup>4)</sup>。ここでいわれている確認という臨地実習のねらいは、本学の実習内容としている事業の見学や一部分の実施の中で期待している学びのレベルといえる。地域看護実習における学生の経験は、見学や一部の実施が多いが、これらも学ぶ場としての意義が大きいと考える。

その中でも、本学では、支援技法における「家庭訪問」と「健康教育」を実際に自分自身で主体的に実施するよう重点をおき指導している。「支援技法の理解」の実習目標の達成度が高かったのは、この実施にあたり事前訪問や指導保健婦との実施の内容についての話し合いや調整など準備を進めていたことも含めて、学生自身が実施のための計画から評価の一連を踏めたことによると考えられる。さらに、学生はこの1つのプロセスを通してであるが、保健婦の能力として求められているコーディネートの意義を実感できると思われる。

## 3. 実習目標の再検討

実習目標や下位目標の達成度は、学生と指導保健婦も同様な傾向を示していた。これは、指導保健婦も、実習経験の有無を実習目標の達成状況として評価していたことによると考えられる。さらに、指導保健婦が実習前に、できるだけ学生の希望に沿うよう実習スケジュールの調整を行ってい

たことも、達成度の高さにつながったと考えられる。

学生と保健婦ともに達成度の低かった下位目標の『保健事業の計画・評価および施策化の理解』や、『保健事業の実施のための組織、予算、マンパワーの必要性の理解』は、実習中に学生の経験が少なく理解しにくい学習課題として示された。それは、学生が実習中に体験できるのは、事業のプログラム中の局面・ある部分のために、どうしてもこのような事業の成り立ちや事業全体のプロセスについて学びにくいからであろう。しかし、これらの内容は、これから地域看護職に求められている能力である。これらの学習項目については講義でも教授されているが、実習前では学生はどうしても実感を得にくい。むしろ、これらについては、実地の中で、その地域の健康課題も実感し様々な事業に触れ学びを得た実習後に、地域全体の事業の捉え方やそのための保健婦の企画力などをまとめる学習機会を設けることが必要と思われた。

さらに、学生と保健婦の評価に有意差が認められた実習目標や下位目標は、学生自身が期待している達成内容と保健婦の期待する達成内容の違いがあることを表していると考えられる。その原因としては、実習目標の不明確さにあると思われる。今後はこの結果をもとに、実習において経験できる内容的な制約などの現実性を考慮して<sup>5)</sup>具体的な目標の見直しが求められる。その際に重要なことは、現在、めまぐるしい変化にある地域看護職に求められる役割や機能を考慮しつつ、大学教育における地域看護実習について、教員と現場にいる保健婦らとともに検討していくことである。

## VI. おわりに

多施設で一斉に展開している地域看護実習について、これまでにも実習内容や方法を模索してきた。今回、学生の「実習経験記録」と「実習目標達成度評価票」から実態を調査分析した結果、学生を中心に学びたい保健事業に焦点をあてて展開している現在の実習方法は、一定の成果をあげている

ことを確認し、評価が得られたこと、さらに実習目標や内容・方法にいくつか検討が必要な事項を明らかにできたことは意義があった。現在、地域看護は大きな転換期にある。これらの検討事項を教員が現場の保健婦とともに検討することによって、基礎教育課程に求められる地域看護の教育や実習内容を明らかしていく必要があると思われる。

#### 引用・参考文献

- 1) 柳沢尚代. こんな保健所実習にしたい. 看護教育. 39(5), 1998, 360-364.
- 2) 金川克子, 村嶋幸代, 麻原きよみ. 地域看護学実践の理論化をめざして. 東京, 日本看護協会出版会, 1997, 27p.
- 3) 宮崎美砂子. 教員と臨地指導者の連携—地域における実習に焦点を当てて. Quality Nursing. 7(3), 2001, 37-42.
- 4) 村上正子. 大学における地域看護教育の現状と課題. 保健婦雑誌. 56(4), 2000, 270-275.
- 5) Mariln, H., Kathleen, B. 看護教育における講義・演習・実習の評価. 舟島なをみ監訳, 東京, 医学書院, 1998, 205p.
- 6) 深瀬須加子. 保健婦(士)教育の実態形態調査. 保健婦雑誌. 52(4), 1996, 298-308.
- 7) 関東甲信越ブロック保健婦・士教育機関協議会. 保健婦・士教育の考え方に基づいた臨地実習のあり方に関する調査報告書. 2000, 10-12.